

第 24 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2019/11/29)

テーマ：災害・健康危機管理に関する WHO グローバルリサーチネットワーク：仙台防災枠組の実践へのサイエンスの貢献

場 所：東北大学医学部（宮城県仙台市）

11月29日（金）に本学医学部6号館1階カンファレンス室にて、第24回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー（主催：災害科学国際研究所「災害と健康」ユニット）が開催されました。今回は WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）医官の茅野龍馬先生をお招きし、「災害・健康危機管理に関する WHO グローバルリサーチネットワーク：仙台防災枠組の実践へのサイエンスの貢献」と題してご講演を頂きました。茅野先生は災害と保健医療に関わる幅広い研究領域を包括した「災害・健康危機管理（Health Emergency and Disaster Risk Management：Health-EDRM）」という概念のもと、世界の有識者ネットワークである「WHO Thematic Platform for Health-EDRM Research Network（TPRN；災害・健康危機管理に関する WHO グローバルリサーチネットワーク）」の立ち上げに取り組まれています。

自然災害が全世界で増加傾向の中、発展途上国における防災対策の難しさ、都市化や高齢化の進行等に伴う災害脆弱性の増加は、複雑かつ深刻な問題となっています。茅野先生には、WHO の医官として、これらの問題に対する対策、特にグローバルヘルスにおける各国の対応能力の向上に焦点をあてた「Country focus」の視点の重要性、一人ひとりの参画がグローバルヘルスの発展に不可欠であることなどをご説明いただきました。また、2015年の第3回国連世界防災会議において、防災における保健の重要性が注目され、成果文書である「仙台防災枠組」には人命や暮らしや健康を守ることが防災の目的として明記されました。さらに、WHO 神戸センターは WHO 本部唯一の研究センターとして TPRN の事務局を務め、災害・健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイドンスの編纂、災害・健康危機管理に関する WHO グローバル研究指針の策定、災害関連の研究公募などに取り組んでいます。

後半には、災害・健康危機管理領域で日本に求められる貢献、巨大災害から得た教訓を生かした DMAT の人材育成やドクターヘリの配備、中長期の心理社会的対応等の災害前後の現場でのヘルスデータ収集・フィードバック、緊急時の倫理申請等について参加者と活発な議論を行いました。今後も日本にしかない強みと経験を生かし、世界に先駆けた新しい研究によるエビデンスに基づいた世界共通の災害対策への提言が期待されます。



会場の様子



茅野先生